第２学年　英語科　学習指導案

大和郡山市立郡山西中学校　　教諭　出口　宗周

１．単元名　　LESSON3 Every Drop Counts (NEW CROWN English Series2)

２．単元の目標

・There is(are)と動名詞を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして理解するとともに、自分自身のことについて There is(are)と動名詞を用いた英文で話したり、書いたりする。（知識・技能）

・自然や環境について書かれている英文を理解し、ワルカ・ウォーター・プロジェクトについて考え、それを英語で表現する。（思考・判断・表現）

・自然や環境について書かれている内容を理解し、未来の地球のために何ができるのかを主体的に調べ、考える。（主体的に学習に取り組む態度）

３．単元について

（１）教材観

本単元では自然環境を活用して水不足問題を解決する取り組みについて関心を高め、身の回りの問題を解決するためのプロジェクトについて考える。USE READ で出てくる「ワルカ・ウォーター・プロジェクト」とは電気を必要とせず、自然現象を利用して空気中の水分（雨、霧、露）を集めて飲料水を作る装置である。イタリアの建築家のアルトゥロ・ヴィットリが２０１２年にエチオピアの小さな村を訪れた時に現地の人々が水不足で苦労している姿を見て、このプロジェクトを思いついた。４人のチームで１日あれば組み立てることができ、費用も１基あたり１０００ドル程度で作ることができる。１日５０～１００リットルの水を提供することを目的としている。水の供給というと、まずは井戸掘りが思い浮かぶが、エチオピアの高原では５００メートも掘らなければならない。しかも、水が見つかってもそれが飲み水として適しているかも分からない。メンテナンス費用などのことを考えても、このプロジェクトが有益なことが分かる。

ＷＨＯとユニセフの統計によれば２０１７年の時点で安全に管理された水が利用可能なのは全世界で約５３億人で全人口のおよそ７割にすぎない。残り３割のうち１６億人は徒歩で往復１時間ほどの場所に井戸がある。水道や井戸などの安全な水を利用できない人が７億８５００万人（その内の９割はサハラ以南のアフリカ、東アジア、東南アジア、南アジアの人々）おり、その内１億４４００万人は川や湖などの地表水を飲み水と利用している。

本単元をＥＳＤ教材として取り上げるのは、世界には水不足で苦しんでいる国があることを知ると同時に、その問題解決に向けての方法を様々な視点で考えていきながら、生徒自身が世界の事柄に興味を持ち考えるきっかけを持ってもらうためである。

（２）生徒観

本クラスは男子１９名、女子１５名計３４人の学級である。明るい生徒が多く、教師の発問にも積極的に反応することができる。英語に興味がある生徒も多く、ALT との対話の授業でもボディランゲージなども用いて、コミュニケーションをとることができる。

一方で、新型コロナウイルスの感染対策上、班活動や生徒同士のコミュニケーションの機会が減っているためグループ活動になった時は、うまくコミュニケーションをとれていない場面も見受けられる。この LESSON の活動を通して生徒同士が相互理解することができる機会にしたい。

（３）指導観

新出文法は There is(are)と動名詞である。there is(are)については be 動詞があとに続く名詞によって判断することを理解しなければならない。また、名詞については原則として定冠詞や固有名詞が置けないことも押さえておく必要がある。動名詞については小学校で導入されているが、活用頻度は基本的なものに限られている。本単元では動名詞が文の主語、動詞の目的語、動詞の補語、前置詞の目的語の４つの用法があることを理解する必要がある。

（４）ＥＳＤとの関連

・本学習で働かせるＥＳＤの視点（見方・考え方）

相互性…水問題は環境問題の一つであり、他の問題とも考えていく必要がある。

連携性…私たちの生活に欠かせない水については、インフラ整備だけに重点を置くのではなく、それを使用する人たちが地球環境についても考えながら進めていく必要がある。

責任性…水は限りある資源のため、使う人々も節水を心掛けていくことが大切である。

・本学習で育てたいＥＳＤの資質・能力

批判的に考える力（クリティカル・シンキング）

インフラ整備ばかりに注目していると、環境についての配慮を怠っている場合があるのではないか。

多面的・多角的に考える力（システムズ・シンキング）

整備する人も使う人も、目の前で起こっていることだけではなく、世界規模での環境問題についても考える。

コミュニケーションを行う力

日頃、あまり考えることがない「水の大切さ」についてお互いに話し合いながら、意見交流を行い、他者の意見を尊重しながら、自分の意見や考えをまとめていく。

つながりを尊重する態度

水不足に陥りやすい国や地域などの特徴についても考えながら、世界規模の環境問題を自分自身の生活と照らし合わせながら学習を進めていく。

・本学習で変容を促すＥＳＤの価値観

自然環境、生態系の保全を重視する価値観

環境に配慮したワルカ・ウォーター・プロジェクトについての学習を通して、水問題と環境問題を相互性をもって考えていく。

世代間の公正を重要視する価値観

今、生きている人たちだけのためではなく、持続可能で普遍的な水不足解消に向けて行動していく。

幸福であることを大事にする価値観

水という私たちの生活にとって大切なものが毎日使うことが状況にいることに感謝するとともに、その使用方法については限りある資源だということを理解していく重要性を再認識する。

・達成が期待されるＳＤＧｓ

６（水・衛星）

すべての人々に水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。

９（インフラ・産業・イノベーション）

強靭なインフラ構成、包括的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。

１０（不平等解消）

包括的で安全かつ強靭で持続可能な都市および人間住居を実現する。

４．単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①There is(are)や動名詞の意味やそれらを用いた文の構造を理解している。	①ワルカ・ウォーター・プロジェクトの仕組みや調書をまとめるために記事の概要を捉え、自分自身の意見や考えを整理している。	①ワルカ・ウォーター・プロジェクトの仕組みや長所をまとめるために記事の概要を捉え、自分自身の意見や考えを整理しようとしている。
②There is(are)や動名詞を活用して、町の施設やお店についての会話を理解し、自分自身が住む町について事実や特徴について表現している。	②English Camp のタレントショーの出し物の内容について考え、自分の意見をまとめながら、仲間とコミュニケーションを取りながら、考えを整理している。	②English Camp のタレントショーの出し物の内容について考え、自分の意見をまとめながら、仲間とコミュニケーションを取りながら、考えを整理しようとしている。

５．単元の指導計画（全８時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1	○GET Part1 There is(are)を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりする。	・There is (are)の文法内容を理解させる。	△ア①
2	○GET Part2 動名詞を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりする。	・動名詞の文法内容を理解させる。	△ア①
3	○USE READ ワルカ・ウォーター・プロジェクトの仕組みや長所をまとめ、概要を捉える。	・動画などで仕組みを視覚的に確認する。	イ① ウ①
4	○USE READ 他の環境問題についての解決方法を考える。	・水問題だけではなく、地球上の様々な環境問題について考える。	イ① ウ①
5	○USE READ 考えた解決方法について発表を行う。	・他の班の発表をきちんと聞くように指導する。	イ① ウ①
6	○USE SPEAK English Camp の出し物について考え仲間と考える。	・仲間とコミュニケーションを取りながら決められるように指導する。	イ② ウ②
7	○USE SPEK 自分の住む町について、簡単な語句や文で表現する。	・自分の街について必要があればインターネットなどを活用する。	ア②